

人権だより

(令和6年度10月号)

川之石高校人権委員会 担当 2年次1組

2学期が始まって2か月が過ぎました。人権委員会では、みなさんの学校生活が少しでもよりよいものになるよう「人権標語」を考えてみました。今月号ではまずそれを紹介したいと思います。廊下の人権コーナーにも掲示しますので、ぜひ見てください。みなさんも、誰もが安心していられる学校になるよう、一人ひとりができることを考えていきましょう。

人権は
みんなを認める
魔法の輪

これまで生きてきた中で、いろいろな人に出会いました。みんなそれぞれの個性があります。みんな違っているけれど、共通点があります。それは、誰もが「人権」を持っているということです。人として尊重され、安心して生きる権利があります。「人権」がある限り、みんなが認められてその人らしく生きられるはずです。そう思うと、人権は人と人をつなぐ魔法のようなものだなと思いました。

私はこれまでに、周囲の人からの「大丈夫？」という言葉に救われてきました。その一言で、「自分の存在を気にかけてもらっているのだな。」と心が温かくなりました。悩みや辛さの根本的な解決にならないとしても、「誰かが自分のことを思ってくれている。」という実感は私の強い後ろ盾になりました。だから私も、周囲の人に「大丈夫？」と言える人間でありたいと思います。何もできないかもしれないけど、声をかけることは大きな一歩だと思っています。

大丈夫？
その一言で
+1°C

その言葉
それって君の
本音なの

私には仲の良い友達があります。普段から楽しく一緒にいますが、時々「えっ？」と思ってしまう言葉を投げかけられることがあります。冗談なのか、本気なのか聞くことができず、とりあえず笑って流してしまいます。でもやはり心のどこかに引っかかったまま残っている言葉もあります。だから、逆に自分も友達にそういう思いをさせているのではないかと怖くなることもあります。「親しき仲にも礼儀あり」で、軽い気持ちでも言って良いことと悪いことはきちんと考えて発言したいです。

10月18日(金)の16:00から保内中学校で行われた講演会に、人権委員が参加しました。とてもわかりやすいお話で、参加した人権委員は「川高生みんなに聴いてほしかった。」とっていました。簡単に大橋先生のお話を紹介します。

講師の大橋先生は、映画コメンテーターとして山口県のテレビ・ラジオ局で映画解説を行う他、イベントやテレビ番組のディレクターなども務めておられます。23歳の時に「ADHD（注意欠如多動症）」「LD（限局性学習症）」と診断されました。算数が特に苦手です。（9-6が頭の中では計算できないそうです。）

大橋さんは地元の小学校に通いましたが、高学年の時に壮絶ないじめを経験しました。ひどい蓄膿症（鼻の奥に膿が溜まる病気）だった大橋さんは、1時間に1回鼻をかんでいました。それを見た同級生の一人が笑い始め、やがてクラス全体が笑うようになりました。先生が笑わないように注意をしましたが、先生のいないところでは笑い声が聞こえました。

そのうちある児童が大橋さんに「馬糞」とあだ名を付けました。みんなが「バフ」などと呼ぶようになりました。一度は「やめて!」と言いましたが、笑われたので言い返せなくなりました。クラスでバフコールが起きるようになりました。大橋さんが当たったり触ったりしたものは、捨てられました。本当に辛かったけど、心配をかけたくなかったから親には言えませんでした。いじめはさらにエスカレートしました。動けないように押さえつけられて、カッターで腕を切られました。その時から「わかめ」になろうと思いました。わかめには感情もない、話すこともない、そう思っていれば耐えられると思いました。しかしそのいじめが先生に見つかり、大騒ぎになりました。いじめは止まりましたが、大橋さんの心には深い傷が残りました。今でも、小学校の前を通ると、動悸がして苦しくなります。

いじめを知った父親は、「自分のことをバカだと言うな。それは自分に対するいじめだ。この世にバカは一人もいない。自分の好きなものがあればそれでいい。嫌なことには大声で『いやだ!』と言える人間になれ。」と言いました。

中学校になってから、自分にあだ名をつけた子が、僕がアニメに詳しいことを知って「ルパンについて教えて。」と言ってきました。絵を描いたり、自分の知識を披露したりすると、「すごい!」と言われ、クラスの皆が変わっていきました。キャッチボールが苦手なことを野球部のエースに話すと「近い距離から練習したらいい。」と言って、自分とキャッチボールをしてくれました。顔面でボールを受けていた僕が、できるようになりました。教室移動の時のざわめきが苦手で、耳をふさいで静かになるまで動けない自分を心配して待ってくれる人が出てきました。



いじめられて辛かったけれど、その人たちが寄り添う側の人間になってくれたこと、これは大きな経験でした。自分を見つめること。できないことは頼ること。得意なことでも人の力になること。これで集団の力が飛躍的に上がります。この認め合いが大切なのだと思いました。やれる喜び、やり抜ける喜びは集団の中じゃないと経験できない。

勉強面では、「高校進学は難しい。行ける高校がない。」と言われながら、自宅から往復2時間以上かかる県立高校に何とか合格しました。卒業後は1年の浪人生活を経て、地元の私立大学に入学しました。大学4年生の時、入社試験は最下位だったものの、面接で2時間映画について語ったことが映画好きの社長に気に入られ、山口県内の地方紙に入社しました。現在はフリーランスで、妻と2男2女の6人で毎日楽しくにぎやかに生活中です。

みなさんも、自分をしっかり見つめて、好きなことや得意なことを伸ばしてくださいね。